

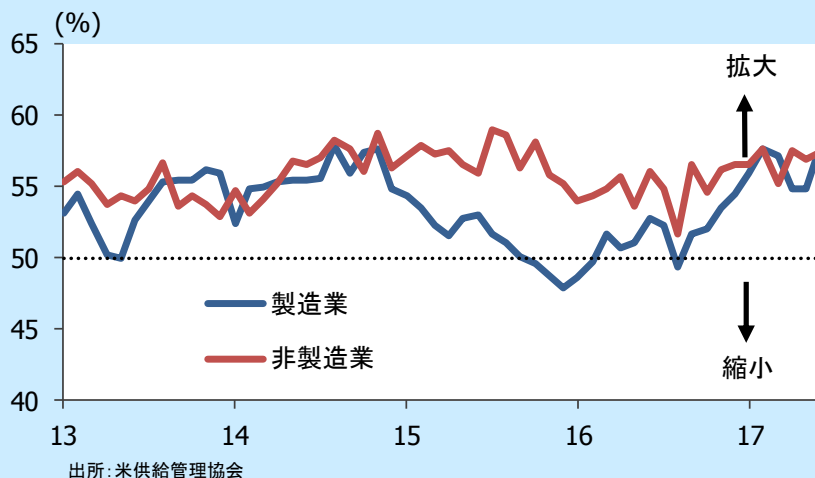
# 米国：ISM景況指数（2017年6月）

## —企業の景況感は高水準を維持—

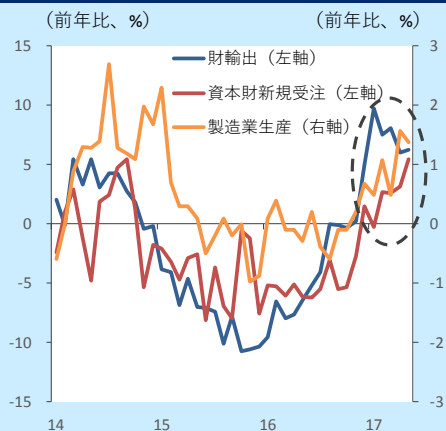
# MRI Daily Economic Points

## July 7, 2017

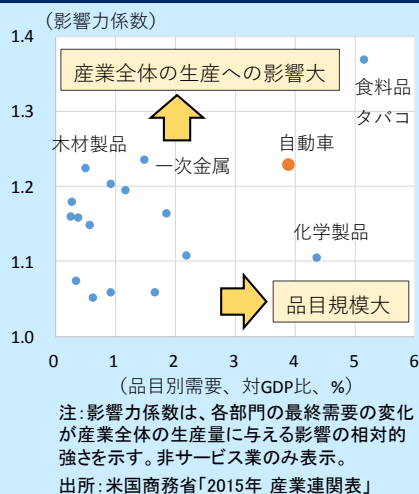
図表1 総合指数



図表2 新規受注・輸出・生産



図表3 産業規模・影響力係数



### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 6月のISM製造業景況指数(総合、7/3公表)は、57.8と前月(54.9)から上昇。2014年8月以来の高水準となった。
- 項目別にみると、幅広い項目が改善。新規受注(63.5)、生産(62.4)は60を上回る高水準となったほか、雇用(57.2)も50台後半まで上昇した。業種別では、18業種のうち15業種が50を上回り、幅広い業種で活動が拡大した。
- 6月のISM非製造業景況指数(総合、7/6日公表)は、57.4と前月(56.9)から上昇。50台後半を維持し、高い水準で推移している。
- 項目別では、雇用(55.8)が若干低下したものの、新規受注(60.5)が大幅に上昇。ビジネス活動(60.8)は3ヶ月連続で60を上回った。業種別では、16業種が50を上回り、幅広い業種で活動拡大が継続した。

#### 基調判断と今後の流れ

- 製造業は、①世界経済の持ち直しによる輸出の改善や、②国内における消費の堅調、③在庫調整圧力の緩和、④トランプ新政権の経済政策への期待などから、良好な景況感を維持。16年半ば以降、財輸出、製造業生産など幅広い経済指標が改善し、企業活動が活発化している(図表2)。非製造業も、堅調な内需を背景に良好な景況感が続いている。
- 先行きも、堅調な内需に支えられ、企業活動の拡大基調が続くと予想する。企業活動の先行指標である新規受注が高水準にあることも、先行きの景況感を下支えするだろう。
- 下振れ要因は、①新政権の政策動向がある。共和党内で保守派と穏健派の間で財政に対する意見の相違があり、税制改革などを巡る議会との調整は難航する可能性がある。税制改革の停滞が続けば、減税期待などで高まった景況感が後退しかねない。また、②自動車販売の減少が続く場合、悪影響が幅広い産業にも波及し、企業活動の抑制要因となる可能性がある(図表3)。